

☆ 今日の目標

1. 「研究Ⅲ」のねらいを理解する
2. 「コロナウィルスから見た社会の課題」について考える

1. 「研究Ⅲ」とは・・・

「研究Ⅲ」ではこれまで行ってきた研究Ⅰ、Ⅱの集大成として「厚みのある教養」を養い、「答えのない問い」に対して他者と議論しながら多面的な視点を養うと共に、未来社会をリードする想像力を養うことを目標としています。

そのために、様々なテーマを題材として「考える・議論する・表現する（書く）」の活動を行っていきます。

## 「研究Ⅲ」で何をするのか

① 出会う・気付く

② 知る・学ぶ

③ 議論する

④ 省察し書く・語る



2. 初回（第0クール）テーマ

### 「コロナウィルスから見た現代社会の課題」

今回のコロナ禍を通して医療、教育、経済、法律など現代社会の様々な問題点が浮き彫りになっています。今回の現象で感じたことこそ、「これからの社会はどうあるべきか」「今後、改善していかなければいけない事は何か」という答えのない問いであり、今こそ真剣に向き合わねばなりません。

<今日の活動>

- ①論文A 文明と新型コロナ 哲学者・斎藤幸平
- ②論文B 生物学的文明論 大学教授・本川達雄  
(教養テキスト第2集「私たちはなぜ科学するのか」p22～)を読む。

<著者参考>

論文A: 斎藤幸平 (大阪市立大学准教授。経済思想史学者)

Capital, Nature, and the Unfinished Critique of Political Economyで権威あるドイツチャー記念賞を史上最年少で受賞。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。

論文B: 本川達雄 (東京大学理学部生物学科(動物学)卒業。東京工業大学名誉教授)

理学博士。専攻、動物生理学。著書『ゾウの時間 ネズミの時間』(中公新書、1992)『生物学的文明論』(新潮新書、2011)ほか。

コロナウィルス関連であなたが変えていくべきだと思ったこと
論文を読んで得られた新たな観点

☆振り返り

内容について	もう少し ←————→ できた				
	1	2	3	4	5
①「研究Ⅲ」のねらいが理解できた	1	2	3	4	5
②「社会の課題」について深く考えるようになった	1	2	3	4	5
③「社会の課題」について他の問題とのつながりも考えるようになった	1	2	3	4	5
④まだ答えのない問いに取り組みたいという気持ちが強くなった	1	2	3	4	5

☆＜今後の活動の流れ＞

第1クール 意見文テーマ：「2030年問題～持続可能な未来の実現～」  
 持続可能な未来の実現に向けてどうすべきか

- 4 / 28 (木) SDGs・マイクロプラスチックとは何かについて学ぶ
- 5 / 12 (木) SDGs・脱炭素社会について学ぶ
- 5 / 26 (木) 専門家の意見を聞く(社会学的側面より)  
 (予定) 講師：NHK 番組制作プロデューサー 堅達京子様
- 9 (木) 自分で調べて、論文の構成を考える。  
 (論文作成までに参考にした資料があれば各自で準備しておく)
- 16 (木) 意見文作成
- 23 (木) サイレントダイアログ(回し読みで意見交換)
- 30 (木) 議論・意見文書き直し

# 「研究Ⅲ」 第1時 ガイダンス

授業日： 4/21（木）7限

## 1 目標

1. 「研究Ⅲ」のねらいを理解する。
2. 「コロナウイルスから見えた社会の課題」について考える。

## 2 配布物

- ・ワークシート（B4版、1枚）
- ・論文A 1枚
- ・論文Bは研究テキストを参照

## 3 事前準備（教員）

- ・パワーポイントファイル（20220421ガイダンス「研究Ⅲとは」.ppt）を各自パソコンにコピーし、テスト再生しておく。
- ・保管用に「藤島ノート」を持参するよう伝えておく。

## 4 本時の展開案

時配	担当者の動き・ポイント	生徒の活動
2	○担当者自己紹介	
38	○パワポ内「研究Ⅲ」のねらいについての説明（10分間） →問いかけを交えつつ  ○パワポ内の第0～1クールについての説明（3分間） →まずはコロナについて話題になっている事を隣と話し合ってみる  ○論文AとBを読み、コロナウイルスから見えた社会の課題について考える。（25分間） →ワークシートに自分の意見を書く。 →グループ内で共有する。	
5	○本時の振り返りを書かせる（2分間） →個人の振り返りができれば良いので、ワークシート回収の必要はありません。  ○今後の活動の流れを説明する（3分間）	・振り返り（ワークシート表面）を記入する。

## 5 次時の展開 マイクロプラスチック・脱炭素について